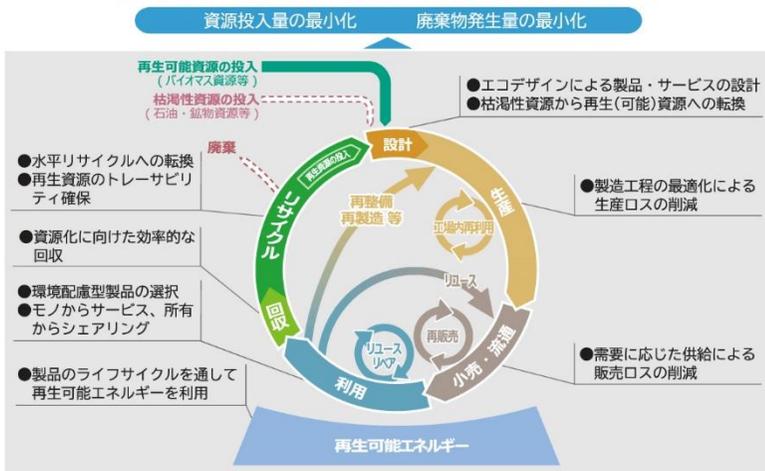




「環境首都あいち」の実現



サーキュラーエコノミーによる循環型社会の形成のイメージ



Outline 全国初自治体プラン「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」

【背景・経緯】

2005年に開催された愛知万博「愛・地球博」での機運の高まりを受け、循環ビジネス支援を行う「あいち資源循環推進センター」を愛知県西守倉に開設（2006年）するなど3Rの取組を推進。

【実施方針】

「あいち地域循環圏形成プラン」（2017年）を受け、サーキュラーエコノミーに関する自治体プランとしては全国初の「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」を策定（2022年3月）。2022年度から2031年度までの10年間で計画期間として、サーキュラーエコノミーへの転換による循環ビジネスの進展を図っている。「あいち資源循環推進センター」を拠点として、4つの施策の柱を立て取組を進めている。

○「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」

- 施策1 サーキュラーエコノミー推進モデルの展開：(1)サーキュラーエコノミー推進モデルの創設、(2)プロジェクトチーム（以下「PT」）の設立、(3)事業者連携による取組への事業化支援
- 施策2 循環ビジネスの振興支援：(1)循環ビジネスの発掘・創出・事業化支援、(2)循環ビジネスの事業継続・普及展開支援
- 施策3 人材育成・情報発信：(1)人材育成（「あいち環境塾」によるリーダー育成等）、(2)情報発信（あいち資源循環ナビ、あいち資源循環推進センター展示コーナー）
- 施策4 多様な主体との連携：(1)サーキュラーエコノミー型ビジネス創出研究会の共同開催、(2)事業者連携の促進（あいち資源循環ナビ）

Point① 6つの推進モデルを掲げ、プロジェクトチームにより、資源循環ビジネスの事業化を目指す

プラスチックや太陽光パネル等の循環利用を促進するため、県の地域特性や産業のポテンシャルを生かした「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」に掲げた推進モデルを創設。その具体化に向け、取組分野ごとに7つの「サーキュラーエコノミー推進プロジェクトチーム」を2023年1月に立ち上げ、会合や調査等を実施しながら事業化に向け、70事業者（2024年末時点）が参画して検討を進めている。

- ①プラスチック循環利用PT：廃プラスチックのマテリアルリサイクルの拡大
- ②バイオマスプラスチック循環利用PT：プラスチック代替となるバイオマスプラスチックの普及拡大
- ③太陽光パネル循環利用PT：2040年頃の大量廃棄を見据えた太陽光パネルの循環利用
- ④繊維・衣類循環利用PT：資源回収されていない衣類の再資源化
- ⑤リペア・リビルド普及PT：リペア・リビルド技術の活用による設備・部品の長寿命化
- ⑥廃食用油利用PT：廃食用油をバイオ燃料として活用するリサイクルシステムの確立
- ⑦木質資源利活用PT：木質廃棄物や未利用森林資源を有効利用するビジネスの創出・拡大

Point② 「あいち資源循環推進センター」コーディネーターの役割発揮

新たな循環ビジネスの発掘、事業化から円滑な事業継続まで一貫して支援する「あいち資源循環推進センター」では、環境技術の知識や豊富な経験を有する「循環ビジネス創出コーディネーター」を6名を配置し、事業化・3R取組相談・助言、技術指導等を行っている。20年近い活動の結果、豊富なデータベースがストックされ事業者マッチングやPT組成において有効に機能。

Point③ ANAと中部国際空港がセントレアにおける資源循環型スキーム

全日本空輸株式会社（ANA）と、中部国際空港株式会社（セントレア）は、PTメンバー（大和エネルギー株式会社、三陽化学株式会社、愛知プラスチック工業株式会社）と協働し、使用済みの航空貨物用プラスチックフィルムを回収、空港で使用するプラスチック製品に再生することで、空港内資源循環型スキームを構築。一定の事業性も担保され、本県の取組の発信に大きく寄与した。

●あいち資源循環センター展示コーナー

